

# 第6回 築地まちづくり検討委員会に係る打合せ会

## 議事概要

### 1 日時

平成30年12月20日（木） 14時30分～16時10分

### 2 場所

東京都庁第二本庁舎 10階 207会議室

### 3 出席者（敬称略）

岸井隆幸、宇田左近、中井検裕、邊見参与、検討委員会事務局（東京都）

### 4 意見の概要

#### ○まちづくり方針総論

- ・O案とJ案の評価の基準は何なのか、コンセプトは両方同じに思えるが、開発順序とスピードと経済性なのか。
- ・第一段階が国際会議場と展示場で施設規模が違うということか。
- ・築地の土地は都が所有しているが、赤字垂れ流しではなく、一定の収益事業を営むというのは大前提だ。
- ・収益性を考えると、都の関わりがないとこれはできない、という考え方。事業者の事業性の話もある。
- ・収益性が全然異なるのと、コアとなる機能が違うところの議論があると思っている。

#### ○土地利用の方針

- ・これだけの敷地に何が必要なのかということを考えたときに、一つはビックサイトや国際フォーラムとも違う国際会議場。もう一つはウェルネスやスポーツ、文化、芸術の中心地と考えて、人が集まるような、集客施設の二つではないか。
- ・東京都が規模の大きいものがほしいと言わないと、開けておく意味がない

- 単なる国際コンベンションではなく、その先に行きたい。それはコアとしてあるが、それだけを言っていては何も変わらない。こんな新しい方向のクリエイティブビジネスに行きます、と言いたい。食というのはクリエイティブという言葉の中に含まれているので、J案でもO案でもどちらでも使える。
- 周辺には有明を含めてスポーツの繋がりもあるし、文化の繋がりもある。医療も近くにある。国際会議場だけではなく、みんなが楽しめる施設、スポーツや健康や食もそう。調子が悪い人は医療とか。食事や運動など健康的に生き生きとできる右脳的な空間があればよい。
- 食文化だけで23ヘクタールをカバーをするのは厳しいのではないかと。場外を大事にして、食文化を最大限生かすというのは大いにありうるが、「食文化」は、大きなものの中でちりばめられているという位置づけ。それ自体が素材にならないのではないかと。
- 今、箱の話と、その箱を使って何をするかという話。その話は両方必要だけれども、真ん中が出来上がるのは10年位先の話。確かにイメージしにくいし、固定すればするほど陳腐化するリスクもある。
- どんどん長寿命化していて、スポーツなども含めて、ビジネス以外の時間の豊かさを展開できるスペースの使い方がよい。多目的アリーナという言葉は箱物のイメージとしては近いけれども、やろうとしていることからするとその言葉ではなくて、造語を作った方がよいのではないかと。都民が色々なことに使える、やりたい人が色々なことに使えるスペース、舞台装置を作ってあげるのが良い。
- 将来を考えると、大きくとれる方がよい。
- 民間に対して、ある程度の条件を相当示していくべきである。そうでないと民間が採算性を追求すると、地代収入は入ってくるから、都にとっては良いかもしれないが、都がやりたいことと乖離していく。
- イノベーションも大事だが、文化など感動するような、歴史が生まれるとか、楽しくなければならぬと考える。隅田川や海にも近く、防災もあるが、特色をだすべき。
- 国際フォーラムやビッグサイトとは違う、浜離宮の庭園があり、築地の食もあり、隅田川もあり、新しいものを生み出すMICEにしたい。そこでみんなが来て何かを感じる、日本の文化をみてもらいながら何か違うものをまた生み出す。

- MICEという空間を使いながら、日本の文化や物を風景を見ながら考えて、次の物を見出すチャンスが生まれる場所にしてほしい。施設だけではなく、それとコラボできる種となるものがもう1つ2つあるとよい。
- 事業者には方針に示す会議施設にしてもらわないといけない。広くとってあるところを何でも民間にやってもらってよいということではなく、相応の縛りを付けて、募集をかける必要がある。